

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

0000 0332

昭和十三年六月現在

事業概要

日本製鐵株式會社
輪西製鐵所

(一) 沿革

北海道噴火灣一帯ニ産スル砂鐵ヲ原料トシテ銑鐵製造ヲナス目的ヲ以テ明治四十年北海道炭礦汽船會社ガ此ノ地ニ六〇噸熔鑪一基ノ建設計劃ヲナシ同四十二年七月二十一日之レガ操業ヲ開始シタルヲ以テ本工場開設ノ嚆メトナス然ルニ操業早々種々ノ支障ニ遭遇シ成功スルニ至ラズ僅カニ二月ニシテ同年九月一時事業ヲ中止スルニ至レリ

大正二年十二月道内産沼鐵鑛並ニ支那朝鮮産ノ鐵鑛ヲ原料トシテ再ビ事業ヲ開始シタルニ稍々其ノ曙光ヲ認メタルニヨリ大正六年二月炭礦汽船會社ト三井家トノ共同出資ニテ資本金三百萬圓ヲ以テ北海道製鐵株式會社ヲ組織シ工場ヲ買收シテ其ノ經營ニ當レリ 時恰モ歐洲大戰ノ影響ヲ受ケ鐵ノ需要頓ニ増加シ空前ノ好況時ニ際會スルニ至レリ

依ツテ當社ハ之レニ順應シテ資本金ヲ壹千五百萬圓ニ増加シ大イニ事業ノ擴張發展ヲ企劃シ第二第三第四ノ熔解爐各一日一二〇噸ノ出銑能力ヲ有スルモノヲ逐次建設シ規模ノ擴大ヲ計レリ

大正八年十二月北海道製鐵會社ハ之レヲ株式會社日本製鋼所ト合併シ資本金ヲ參千萬圓トナシ輪西工場ハ室蘭工業所ノ一部トシテ經營セラル、事トナレリ

大正十三年十二月一日室蘭工業所ヲ廢シ室蘭工場輪西工場ト改稱シ當工場ハ専ラ製鐵及採鑛ニ關スル一切ノ業務ヲ管理スル事トナレリ之レヨリ先キ大正十二年ニ於テ事業ノ合理化ヲ計ル爲メ起業費約參百五十萬圓ヲ投シテ骸炭爐並ニ副産物工場ノ新設ニ着手シ大正十三年十二月「コッパース」式骸炭爐第一列三〇窯ヲ同十四年五月第二列三〇窯ヲ共ニ完成シ翌十五年二月「タール」蒸溜工場、四月「ベンゾール」蒸溜工場、七月硫酸工場、昭和五年九月燒結工場ト逐次設備ノ完成ヲ

ナセリ

昭和六年十月一日輪西工場所屬鑛山及前記新設工場ヲ株式會社日本製鋼所ヨリ分離シ更ニ室蘭工場内平爐二基及附屬設備ヲ讓受ケ新タニ資本金壹千九百萬圓ヲ以テ輪西製鐵株式會社ヲ組織シ本店ヲ東京ニ置キ輪西及朝鮮价川ニ事業所ヲ設ケ專ラ銑鐵鋼塊及副産物ノ製造販賣並ニ鑛山ノ經營ヲナス事トナレリ

昭和七年末期以來事業界ノ好況ニ伴ヒ工場諸設備ノ増設ニ着手シ昭和八年四月第四熔鑛爐ノ改築引續キ同年十二月第三熔鑛爐ノ改築ト共ニ作業開始ヲナシ以テ熔鑛爐二基各一日二五週年額約二四〇、〇〇〇噸ノ製鐵能力ヲ有セシムルニ至レリ

之レト同時ニ更ニ燒結工場ノ増設、骸炭爐副産物工場ノ増設、鑄銑機汽罐其他附帶設備等各般ノ施設ニ涉リ熔鑛爐能力ニ順應スル諸設備ノ増設又ハ新設ヲ行ヒ昭和八年十二月之レガ完成ヲ見ルニ至レリ

昭和九年二月一日資本金三億五千九百八十二萬一千圓ノ日本製鐵株式會社ノ創立ニ伴ヒ輪西製鐵株式會社ハ其ノ經營セル鑛山及水力電氣關係ノ事業ヲ除ク他ノ設備一切ヲ舉ゲテ新會社ニ參加合同スル事トナリ此ニ日本製鐵株式會社輪西製鐵所ト改稱スルニ至レリ

昭和十一年二月半骸炭製造工場ヲ、同年三月四、二〇〇KW發電機及同年六月第二燒結工場ヲ完成シ引續キ事業ノ發展ニ從ヒ第二次計劃トシテ昭和十二年十二月熔鑛爐一基骸炭爐四五窯及燒結機三基ヲ設備シ次テ第二熔鑛爐及第一、二列骸炭爐ノ改築ニ着手、昭和十三年中竣功ノ豫定

(二) 所有地及埋立

工場用地	一八二、一九四坪
社宅用地	一一九、七四九坪
水道用地	四二〇、三三八坪
雜用土地	二〇、一六五坪
埋立土地	六一、二九六坪

(三) 従業員

職員	三八名
雇員	九七名
工員	一、七〇二名

(四) 主要設備

一、熔鑛爐	四基
二、鑛石燒結設備	八基
三、鑄銑機	二基

各種製品平均分析表

品名	成分 %				
	炭素	珪素	満 俺	硫 黄	燐
一號 鉄	3.0 以上	2.8-3.5	0.6 内外	0.04 以下	0.5 内外
二號 鉄	3.0 以上	2.2-2.8	0.6 内外	0.03 以下	0.5 内外
三號 鉄	3.0 以上	1.5-2.2	0.6 内外	0.03-0.04	0.5 内外
ベ-シツク鉄A	3.0 以上	1.3 以下	1.2 以上	0.045 以下	0.40 以下
全 上 B	3.0 以上	1.8 以下	1.0 以上	0.08 以下	0.60 以下

炭 灰	揮發分	固 定 炭	灰 分	硫 黄	燐	窒 素	氣 孔 率	發 熱 量
	2.83	79.31	17.86	0.382	0.087	0.92	42.83	6,575

副産物	比 重	水 分	遊 離 炭	遊 離 硫	窒 素	蒸 留 範 圍		
						初滴°C	終點°C	366°Cニテ%
硫 安		1.88	0.06		20.65			
タ ー ル	1.20	2.30		10.65		100°C	以上	40%以下
純 ベンゾ-ル	0.885					79°C	81°C	以下
純 トルオ-ル	0.871					110°C	111°C	以下
モ-ター ベンゾ-ル	0.875					78°C	120°C	
ソルベント ナフサ	0.868					125°C	165°C	
ヘビ- ナフサ	0.900					140°C	200°C	
グレオ ソ-ト	1.08	1.00				120°C		90%以下
粗製 ナフタリン	純 度 70.00							
粗製 アン スラスン	30.00							
	比 重	熔 解 點	固 定 炭	遊 離 炭	灰 分	揮發分	二 酸 化 炭 素 溶 解 量	
ピ ッ チ	1.21	65°C	35.00	18.00	0.15	65.00	80.00	

- | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 四、骸炭 爐 | | | | | | | | | | |
| 五、半骸炭製造設備 | | | | | | | | | | |
| 六、硫酸「アムモニヤ」設備 | | | | | | | | | | |
| 七、「ベンゾ-ル」蒸溜設備 | | | | | | | | | | |
| 八、「タール」蒸溜設備 | | | | | | | | | | |
| 九、硫酸製造設備 | | | | | | | | | | |
| 十、汽 罐 | | | | | | | | | | |
| 十一、火力發電所 | | | | | | | | | | |
| 十二、水 道 | | | | | | | | | | |
| 十三、倉 庫 | | | | | | | | | | |
| 十四、社 宅 | | | | | | | | | | |
-
- | | | | | | | | | |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 一日引用量(淡) | 二〇〇〇立 | 九〇〇〇立 | 二〇〇〇立 | 一〇〇〇立 | 一〇〇〇立 | 一〇〇〇立 | 一〇〇〇立 | 一〇〇〇立 |
| 海水 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 水 | 三〇〇〇立 | 九〇〇〇立 | 二〇〇〇立 | 一〇〇〇立 | 一〇〇〇立 | 一〇〇〇立 | 一〇〇〇立 | 一〇〇〇立 |
| 淡 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 五七棟 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 九七棟 | 五 | 九 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 八戸 | 棟 | 米 | 米 | 基 | 式 | 式 | 式 | 式 |
| | | | | | | | | 團 |

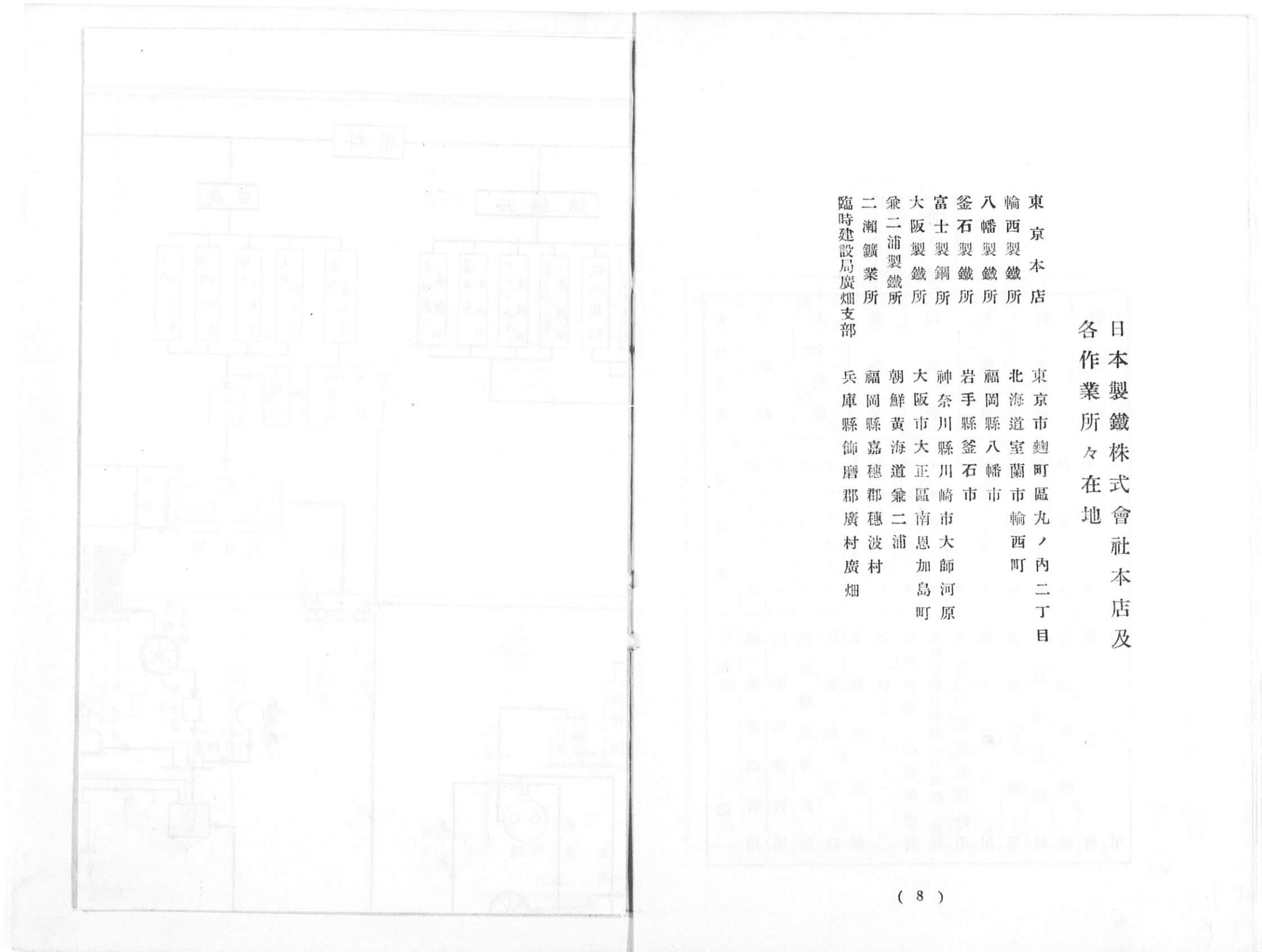
骸副
炭及
産物

原料石炭	夕張炭	大夕張炭	空知炭	茂尻炭	土威炭	開平炭	半骸炭
骸炭	タ	ビ	ク	ナ	ナ	ナ	ナ
製	タ	ビ	ク	ナ	ナ	ナ	ナ
品	タ	ビ	ク	ナ	ナ	ナ	ナ
名	タ	ビ	ク	ナ	ナ	ナ	ナ
用	タ	ビ	ク	ナ	ナ	ナ	ナ
途	タ	ビ	ク	ナ	ナ	ナ	ナ

銑
鐵

原料名	製品名	用途
俱知安外道内鑛石	鑄物用鐵	鍋釜、鑄鐵管
朝鮮利原鑛石	鑄物用鐵	其他各種
支那大平府鑛石	鑄物用鐵	機械鑄物用
フイリツピン鑛石	鑄物用鐵	鋼
南洲ヅングン鑛石	鑄物用鐵	鋼
南洲ジヨホール鑛石	鑄物用鐵	鋼
濠洲ワイヤラ鑛石	鑄物用鐵	鋼
滿俺鑛石	鑄物用鐵	鋼
平爐洋	鑄物用鐵	鋼
石炭	瓦	燃
骸炭	瓦	燃

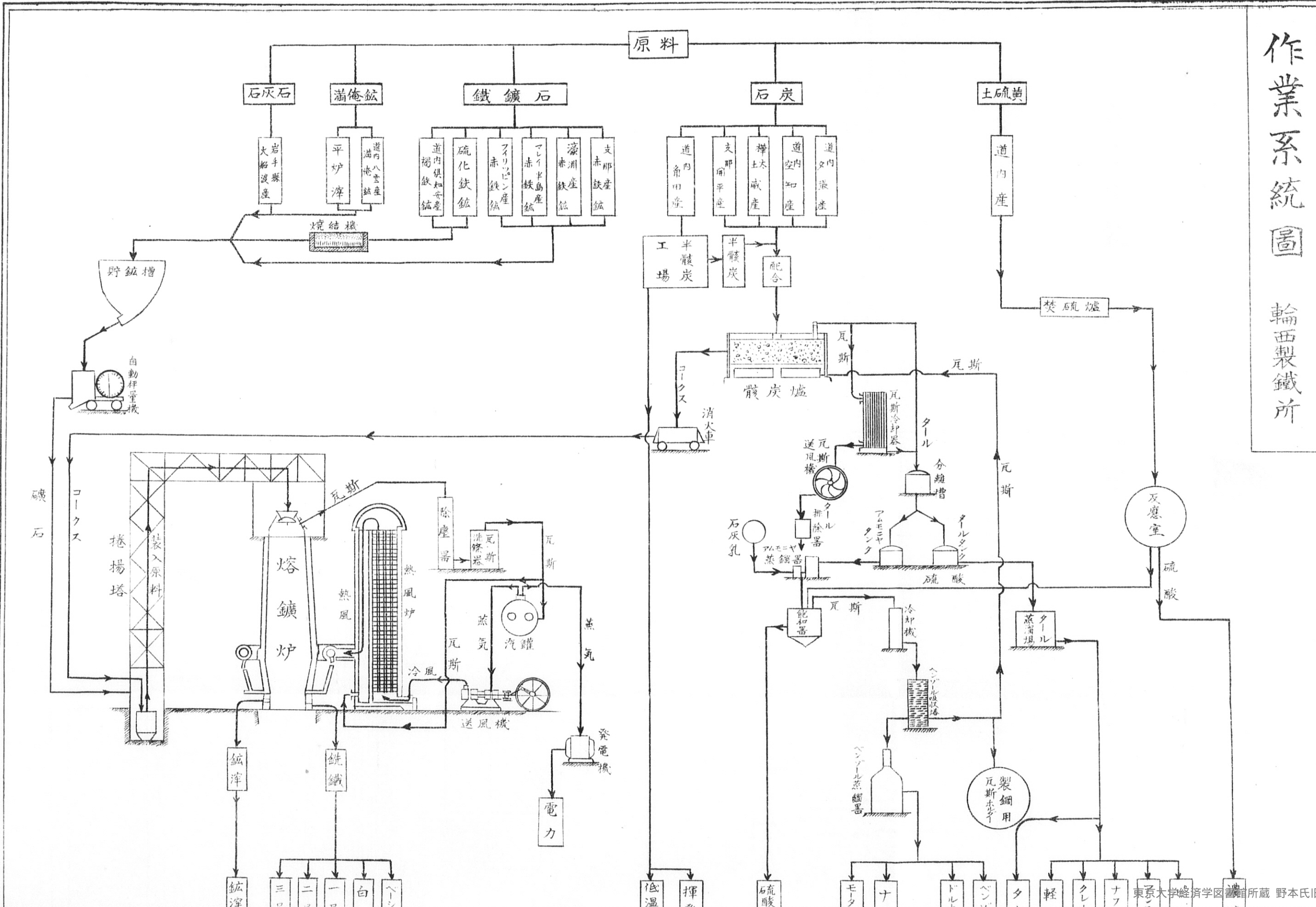
製品ノ種類ト其用途



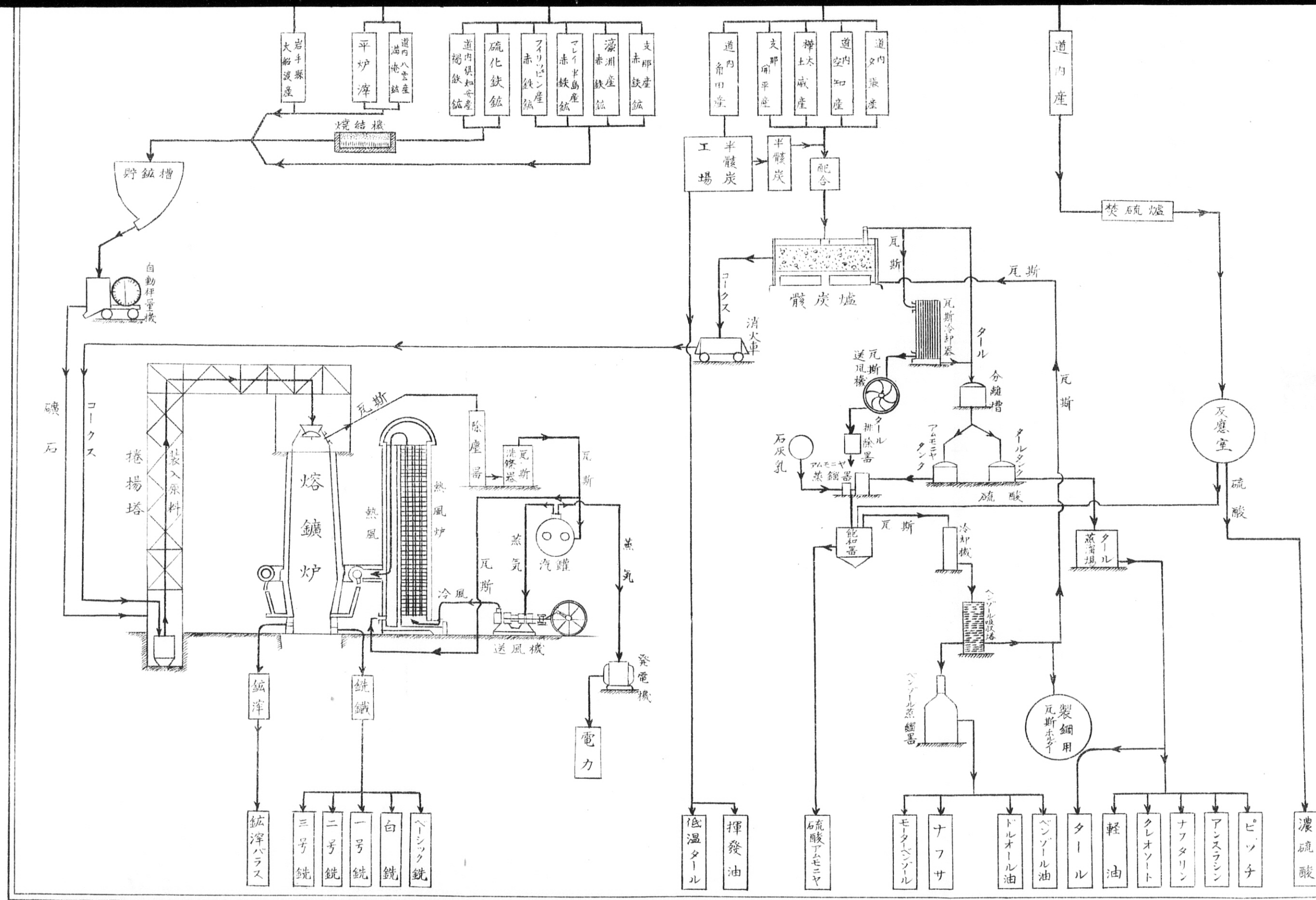
日本製鐵株式會社本店及各作業所所在地

- | | |
|-----------|--------------|
| 東京本店 | 東京市麴町區丸ノ内二丁目 |
| 輪西製鐵所 | 北海道室蘭市輪西町 |
| 八幡製鐵所 | 福岡縣八幡市 |
| 釜石製鐵所 | 岩手縣釜石市 |
| 富士製鋼所 | 神奈川縣川崎市大田區河原 |
| 大阪製鐵所 | 大阪市大正區南恩加島町 |
| 兼二浦製鐵所 | 朝鮮黃海道兼二浦 |
| 二瀬製鐵所 | 福岡縣嘉穗郡穗波村 |
| 臨時建設局廣畑支部 | 兵庫縣飾磨郡廣畑村 |

作業系統圖
輪西製鐵所

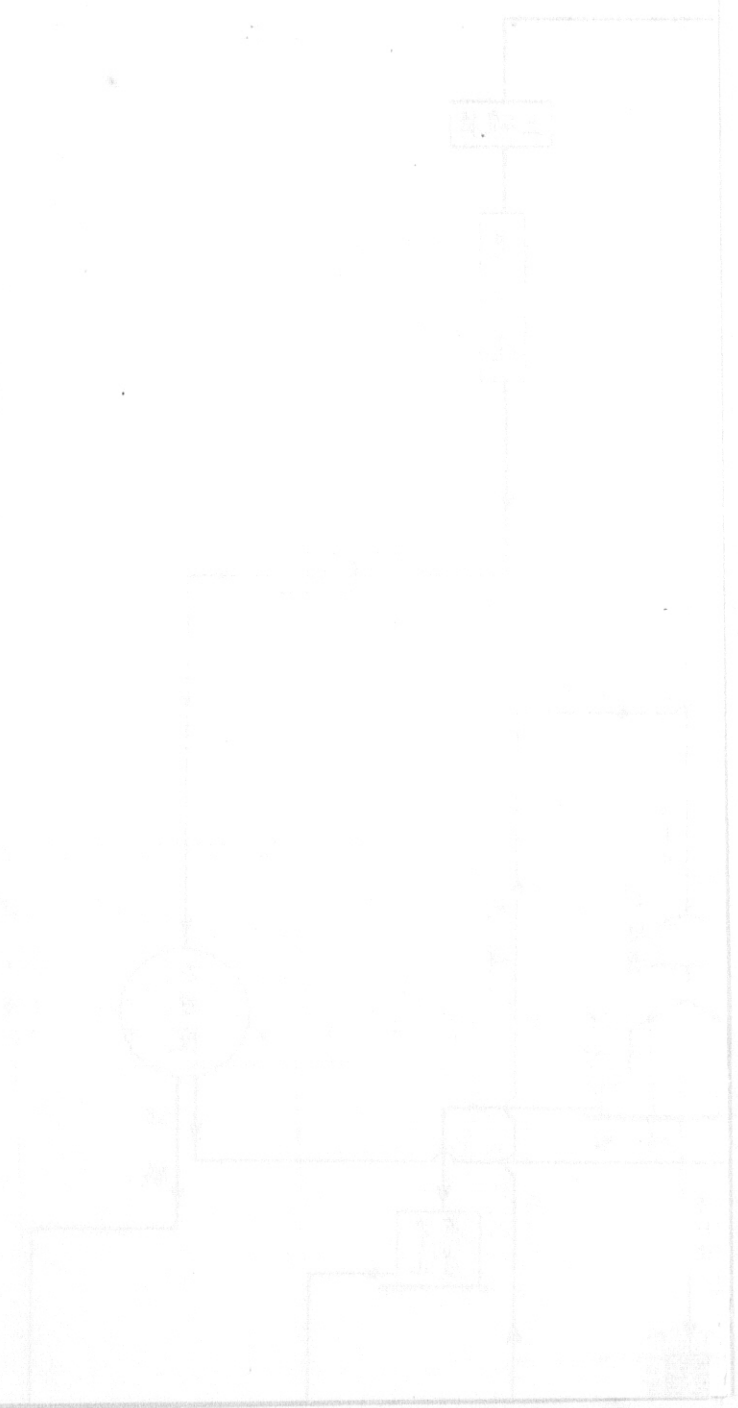


系統圖
輪西製鐵所



新工場建設設計書ノ大要

新工場建設設計書ノ大要



鋼工機製造業の主要設備

一、主要設備

- (一) 製銑設備
 コークス製造設備
 副産物製造設備
- (二) 製鋼設備
- (三) 傾注式平爐六基及附屬設備一式
- (四) 混銑爐一基及 "
- (五) 鋼材壓延設備
 分塊設備 一式
 中小形壓延設備 一式

二、共通及附帶設備

- (一) 動力設備 一式
- (二) 蒸氣設備 一式
- (三) 給排水設備
 貯水池一ヶ所、調整池一ヶ所、河水引用設備
- (四) 瓦斯配給設備 一式
- (五) 輸送設備
 水道設備、其ノ他附屬設備 一式
- (六) 道路、鐵道、荷揚及積込起重機
 繫船壁、防波堤其ノ他附屬設備

- (七) 病院設備 一式
- (八) 社宅設備 職員社宅約二〇〇戸
- (九) 事務所及附屬建物並研究設備 職工社宅約三〇〇〇戸
- (十) 倉庫其ノ他雜設備 一式

三、工事着手及完成ノ豫定期

着手 昭和十二年七月
完成 昭和十五年 中

四、本計畫完成後ニ於ケル原料ノ需給ト製品ノ種類

- (一) 所 要 主 原 料
 - 鐵 鑛 石 年約一、四〇〇、〇〇〇噸(大部分外國鑛石)
 - 石 炭 " 一、三〇〇、〇〇〇噸(大部分、北海道炭、一部外國炭)
 - 石灰石其他耐火材 " 三七〇、〇〇〇噸(大部分內地產)
- (二) 製 品 ノ 種 類
 - 鋼 塊
 - 鋼 材
 - 銑 鐵

副產物 (ベンゾール、タール硫酸其他)

五、其 他

- (一) 工 場 用 地
 - 工場及社宅用地(埋立區域ヲ含ム) 約九三〇、〇〇〇坪
 - 外ニ埋立豫定區域 約四五〇、〇〇〇坪
 - 船溜而積 約二七〇、〇〇〇坪
- (二) 所 要 從 業 員
 - 職 員 約 三〇〇名
 - 職 工 約 五、〇〇〇名
- (三) 最 初 ノ 出 銑 時 期
 - 昭和十四年十二月ノ豫定